

## 令和八年度入学式 式 辞

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。本日はこのように入学生全員が一堂に会して盛大に入学式を挙行することができ、喜びを感じております。皆さんはこれから始まる滋賀大学での学生生活に期待をふくらませているものと思います。皆さんのご両親やご家族もさぞかしお喜びのことでしょう。桜も満開となり、皆さんの門出を祝っています。大学や大学院で経験するさまざまな課題に積極的に取り組み、充実した大学生活を送ってください。教職員一同、皆さんのキャンパスライフをしっかり支えていきます。

さて、いま世界は未曾有の変化に見舞われています。皆さんはこれから激しく変化する世界に直面することでしょう。ここでは、皆さんが直面する二つの大きな変化についてお話したいと思います。一つ目は世界の紛争についてです。二つ目はA Iの急速な発展についてです。

まず世界の紛争について振り返ってみたいと思います。ロシアによるウクライナ侵攻が始まったのは二〇二二年二月二十四日ですが、すでに四年をこえて長期化しています。大国の人的犠牲をいとわない攻撃の前に、小国が自身の領土と独立を守るために戦っています。ロシアはウクライナ領土の二割程度を占領するに至っていますが、戦線は膠着状態になっています。また二〇二三年十月七日にはイスラエルとハマスの間の戦争が始まりました。これはパレスチナのガザ地区を支配するハマスによる奇襲攻撃によって始まったものですが、昨年十月に人質が解放されて、一応収束しました。ただし、この間の犠牲者数は、パレスチナ側に大きく偏っており、紛争の収束は力による平和の側面が強く、多くの問題を残したと思います。さらに大きな驚きは、二月二十八日にアメリカとイスラエルがイランへの大規模な軍事作戦を開始したことです。アメリカとイスラエルによるイラン攻撃は、イランによるホルムズ海峡封鎖という反撃を引き起こし、すでに私たちの身近でもガソリン価格の上昇を引き起こしています。今後の世界経済への影響が非常に懸念されます。

第二次世界大戦後、さまざまな紛争があったものの、世界が発展し、次第に平和へと向かっていくものと考えられていましたが、これらの戦争の勃発によって平和への希望が打ち砕かれ、百年前の世界に戻ってしまったかのように感じます。特に民主主義と国際協調の旗頭であったアメリカがこのように大きく変化したことは、四十年ほど前にアメリカでの生活を体験した私にとっては予想外のことでした。

このように世界は不安定になっていますが、幸い平和な日本に住む私たちは、この平和を積極的に守っていくことが重要です。いま日本には外国から多くの旅行者が来ていますが、その一つの理由は、日本が平和で安全だからだと思います。平和や安全に価値があり、その価値を守る必要があります。平和や安全を守るためには、人種や文化が異なっても相手の存在を認め、暴力に訴えず話し合いで解決していくことが必要です。これは一言でいえば「多様性を尊重する」ということになると思います。多様性の尊重は社会のさまざまな場面で強調されてきたのですが、最近では、戦争の影もあり、特定の集団の正当性のみを主張する傾向が強くなっています。例えばアメリカの政治的分断は深刻であり、そのことがアメリカの行動を予測しづらくする要因になっています。特定の立場のみを正しいとする主張は、単純でわかりやすいという面があります。しかし実際には世界は多様で複雑です。皆さんは滋賀大学でさまざまな観点から社会を眺める素養を身に付けていただき、多様性を尊重する人材になってほしいと思います。

次にA Iの急速な発展についてお話したいと思います。日本はこの分野で世界に遅れており、世界に追いつき追い越す努力が求められています。デジタル分野での日本の遅れについては、スイスにあるビジネススクールのIMD（国際経営開発研究所）が発表している世界デジタル競争力ランキングがよく引用されます。昨年のランキングでは、六十九の調査対象国・地域のうち、日本は総合順位で三十位でした。世界一位はスイスで、十位は台湾でした。さらに「デジタルスキルの習得」という項目では日本は六十五

位、「ビッグデータや分析の活用」という項目では六十七位と惨憺たる結果でした。一方で「無線ブロードバンド」では二位、「世界のロボットに占めるシェア」でも二位と大いに健闘していました。健闘しているのはハードウェアの分野ですから、日本が遅れている分野はソフトウェア分野であると考えられます。私たちの日常生活でも、ウェブの検索はグーグルを使うことが多く、ネット通販ではアマゾンを使うことが多いと思います。G A F Aとよばれるこれらの企業は、世界的なプラットフォーマーとしてサービスを提供しており、私たちがこれらのサービスを利用すると、そこから得られる収益はG A F Aのものとなります。このような日本の赤字を表す数字が「デジタル赤字」です。財務省が二月に発表した昨年の国際収支状況速報によると、日本のデジタル赤字は約六、七兆円となり、日本人一人当たりで考えると、ひと月数千円の赤字です。このデジタル赤字は外国人が日本を訪れることによるインバウンド黒字より大きいものです。このような日本の遅れを解消するために、皆さんには、デジタル技術を身に付け、積極的に活用してほしいと思います。

デジタル技術の中でも注目されるのは生成A Iです。二〇二二年十一月に登場した ChatGPT は大きな驚きを持って迎えられましたが、その後の発展も著しく、今年の大学入学共通テストでは満点に近い成績を残しています。滋賀大学は生成A Iに関するガイドラインを設定し、積極的に活用する方針を掲げています。そして国内の他の大学に先駆けて、昨年四月一日より ChatGPT の教育版を大学として正式に導入しました。皆さんも ChatGPT などの生成A Iにわからないことを聞くなど、日常的に利用している人も多いのではないのでしょうか。経済安全保障という観点からは、国産A Iの活用も重要です。外国の技術のみに頼っていると、経済的な独立性が危うくなるリスクがあります。滋賀大学では、この四月から、A I分野での日本の代表的なスタートアップ企業の生成A Iを正式導入します。このように、滋賀大学は、すべての学生や職員が積極的にA Iを活用する大学となることを目指しています。このことを滋賀大学はA Iネイティブ大学になるという標語で表しています。今年度からは、生成A Iを用いてデータ分析を学ぶ全学教養科目も開講します。そして滋賀大学での教育全般において、A Iを活用し、皆さん一人ひとりの学習をサポートする教育改革を進めていきます。

生成A Iの利用にあたっての注意点としては、出力される情報が不正確であり得ること、また著作権侵害があり得ること、などがあげられます。また悪意を持って生成A Iを利用すると、偽のコンテンツやフェイクニュースを作成することも可能です。新しい技術には負の側面があることも事実ですが、このような側面を理解した上で、皆さんにはA Iに使われる人材ではなく、A Iを道具として正しく使いこなす人材になってほしいと考えています。そのような人材こそが、これからの社会で求められる人材です。

以上述べてきたように、世界は未曾有の変化に見舞われています。しかし、大きな変化の時代は、不安の時代であるとともに、可能性の開けた時代です。高校までの学びでは、大学入試への準備もあり、皆さんは正解のある問題を解き、正解を早く見つけるような訓練をしてきたと思います。しかしながら、未来がどうなるかについて唯一の正しい答えがあるわけではありません。大学での学びを通じ、あり得るさまざまな未来の中から、皆さんが未来を選びとっていくのです。滋賀大学の中期目標のキーワードは未来創生大学です。皆さんが滋賀大学での学びを通じて、未来を切り拓く人材に育ってくれることを願っています。

令和八年四月六日

国立大学法人滋賀大学長 竹村 彰通